



地区の世帯数	157世帯
地区の人口	367人
高齢化率	48.1%
(平成27年2月1日現在)	

美濃地区振興センター・美濃公民館

美濃地町イ140-1

☎29-0031

3月3日は雛祭りです。元々三月三日は、年齢・性別関係なく、草や藁(わら)で作った人形(ひとがた)の体を撫で穢れ(けがれ)を移し、健康を祈って災厄を祓うことを目的とした農村儀礼が行われていたそうです。また、平安貴族の10歳くらいまでの子女は、人形(ひとがた)を貴族の日常生活を真似たごっこ遊びをする目的に用いていたようです(この遊びが後にひな祭りになったそうです)。昔は三月初め日(み)の日に雛を祭ったために上巳(じょうし)の節句とも呼ばれます。また、桃の節句ともいわれますが、これは旧暦の三月ごろに桃の花が咲き、桃などの自然の生命力をもらうなどして厄災を祓うためとされるからだそうです。3月6日には啓蟄となり春の芽生えを感じる季節ですが、彼岸までは寒い日があるとされてます。無理をせずにお過ごしください。

「市長と語り合う会」 1月27日(火) <秘書広報課>



日中は穏やかな冬日和だったのですが、夜になると冷たい雨が降り寒気に包まれてしまいました。そんな足もとの悪い中、19名の地区民の皆様が日ごろの熱い想いを胸に「市長と語り合う会」に参加して下さいました。市長からは26年度の実績報告があり、その後、質疑応答となりました。限られた時間の中、地区民から今後の美濃地区を心配する質問が多く出され、その都度、解りやすい言葉で親切に答弁して下さいる市長の真摯な姿が印象的でした。美濃地区の抱える問題は多岐にわたり、それらの解決には、まず、思い込みではなく冷静な目で問題を直視する勇気と、それぞれの問題に対して真摯な姿勢で臨むことを市長から教わったような気がします。改めて市長並びにご参加いただいた方々にお礼申し上げます。



「桜の苔落とし」 1月31日(土) <美濃の桜を守る会>



桜が最も美しいのは5分咲き、満開、散り際、それとも葉桜??人それぞれにその時々の美しさを感じる桜ですが、立春を過ぎた、晩冬の頃に細い枝が徐々に紅色に染まりだします。桜が春の開花に向けて命を発露させる時期



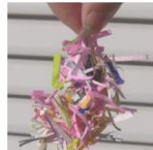
です。厳しい冬を乗り越えた桜が蕾を膨らませようとするその時は、私達が知る桜とは一味違う美しさを放ちます。今年は朝から不安定な天気でしたが、地区からは20名を超える多くの方が参加しての「桜の苔落とし」が行われました。苔が生える状態とは、木の古くなった外皮がそのまま、そこに苔などの着生植物がついているということで、古い外皮や苔は、害虫・病原体の越冬場になるそうです。病害虫を予防するための苔落としですが、皆さんのお陰で美濃の桜は春を迎える準備が出来ました。



作業終了と同時に雪が降り始めたのですが、「ジャスミンの会」の会員さんをご用意して下さいした桜餅と桜湯が冷えた体を温めてくれました。この事業は学校跡地の問題ともからみ事業としての存続も含め大きな転機を迎えることとなりました。記念の桜に象徴される美濃の地区民の底力が試される時が来たようです。

「名付け親大募集」

美濃小学校が閉校になる前ですが、小学校内で秘かに「ゆるキャラ」が使われていました。それが林教頭先生の御発案で椋木輝美さん(本郷下)がデザインを手がけたマスコット・キャラクターです。椋木輝美デザイナー(?)が当時の小学生に「美濃」のイメージを聞くと「ミノムシ」、「田植囃子」と答えたそうでその二つをヒュージョン(融合)して出来上がったのが下のキャラクターです。椋木輝美デザイナーが調べるにミノムシは枕草子や松尾芭蕉の俳句にも登場するほど古くから人々に親しまれていたようで、それは、長い歴史の中で石見の人たちから親しまれていた美濃の先人そのものであり、また、身の回りの繊維であれば葉や枝でなくても蓑を作り上げるところは、固定概念を持たずに様々な知識を吸収しようとする美濃の人たちの理想の姿を感じたとのことです。そのミノムシと美濃の伝統芸能である田植囃子の装束を組み合わせたキャラクターですが、小学校内で秘かに使われていたために、名前がありません。そこで地域の皆さんにこのキャラクターの名前を考えていただきたいのです。是非、名付け親になって下さい。これはという名前があれば公民館までお知らせください。



細かく切った色紙の中に葉を取り去った幼虫が作ったカラフルな蓑



名前:まだありません
年齢:永遠の11歳
性別:不明
身長:3尺7寸
体重:9貫目
住い:美濃衆(みのんしゅう)の夢の中
趣味:カラーコーディネイト
特技:みのアンテナによる情報収集

「第3回健康相談・健康教室」

2月4日(水)

＜美濃地区健康を守る会＞



本年度3回目の健康相談・健康教室は血圧測定と検尿後、益田スイミング・クラブの吉永めぐむ先生をお招きし、「室内での頭を使った簡単体操」を行いました。はじめて体験した「シナプソロジー」はとても楽しく、そして心地よく「脳」と「体」を刺激してくれました。先生の「スパイスアップ」の掛け声とともに脳と体が混乱するのがわかります。

脳と体を使うと甘いものがほしくなるのは人の常、食改さんが心を込めて作って下さった「おやつ」が疲れた脳と体を癒してくれました。ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。



「小さな拠点」づくりフォーラム in 松江

2月12日(木)

＜国交省＞



「小学校区等、複数の集落が集まる地域において、商店、診療所などの生活サービスや地域活動を、歩いて動ける範囲でつなぎ、各集落とコミュニティーバスなどで結ぶことで、人々が集い、交流する機会が広がっていく。新しい集落地域の再生を目指す取り組み、それが『小さな拠点』です。」(国土交通省「小さな拠点」づくりガイドブックより引用)

全国規模の「小さな拠点」づくりフォーラムが松江市の「松江テルサ」で開催され、美濃

地区からは9名が参加しました。フォーラムに先立ち数か所に分かれパワーランチも開催いたしました。フォーラムでは基調講演や事例報告やパネルディスカッションがあり、小さな拠点モニターに選ばれている他地域は住民達の声によって様々な行事ないし活動方針を決め、自治組織を運営している姿が分かりました。自分達の村を自分達で見つめ直し、子や孫へのバトタッチを真剣に考える事で各自治体が少しずつ動いている現状を感じました。今後の美濃地区を考える上で、非常に参考となる事例が数多く報告された実りあるフォーラムでした。



「第2回先進地視察」

2月18日(水)

＜美濃地区自治組織設立準備会＞



益田市の地域自治組織ガイドラインでは「みんなで参加し、みんなで支え、みんなで育む地域づくり」を旗印に地域の活性化を図り、各地の人口拡大・次世代定住の土台作りを構築していくことを地域自治組織設立の目的としています(益田市政策企画局人口拡大課作成、「これからの地域自治の仕組み」より)。

その目的を踏まえ、専心し視察が行われました。柳井市日積地区では、平成20年度に「日積地区夢プラン」が策定され、その中の実践項目の一つに、「買い物、通院等に便利なまちづくり」を掲げており、地区社会福祉協議会を中心に生活交通対策について検討されています。この日積地区取り組みは、近い将来に導入が予定されている指定管理者制度という大きな課題を抱えた美濃地区にとり、大変参考になるものでした。



「グランドゴルフ大会」のお誘い

＜美濃地区老人クラブ＞

旧美濃小学校校庭で「老人クラブ会長杯争奪グランドゴルフ大会」を実施いたします。

今回は厳しい(^◇^)参加資格が設けられていますが、皆様のご参加をお待ちしております。



開催日時：平成27年3月25日(水) 13時30分～(雨天順延)

開催場所：旧美濃小学校校庭

参加費：無料

参加資格：当日、素敵な笑顔をお持ちいただける方に限定いたします。

※クラブなどは用意いたしますが、水分補給用のお茶やタオルなどはご持参ください。

介護保険制度改正に伴う説明会のお知らせ

＜益田市高齢者福祉課＞

平成27年4月から介護保険の一部が変わります。①介護保険料の見直し ②介護保険料の負担割合の変更 ③介護報酬の改定 ④地域支援事業の変更(新事業)の説明を行います。

日時：3月26日(木) 9時30分～

場所：美濃地区振興センター(公民館) 集会室

お礼

美濃地区社会福祉協議会に対して、ご寄付を頂戴いたしました。厚くお礼申し上げます。

北野 薫 様



「季節の四方山話」

＜ハツラツ通信編集部＞

3月21日は二十四節気の一つ「春分の日」です。昼と夜の長さがほぼ同じとなり、この日から夏至まで、昼がだんだん長くなり、夜が短くなります。そして雑節の一つ、彼岸(ひがん)は、春分・秋分を「彼岸の中日」とし、前後各3日を合わせた各7日間(1年で計14日間)とされています。また、雑節とは、二十四節気・五節句以外の季節の節目となる日のことですが、彼岸は仏教の伝来に伴い、彼岸の思想が広まり、定着した日本独自の信仰だそうです。この期間の最初の日を「彼岸の入り」、最後の日を「彼岸明け」と呼ばれていますが、お彼岸と言えば「おはぎ」ですよね。地域によっては「ぼた餅」とも呼びますが、漢字で書くと「お萩」と「牡丹餅」と書きます。小豆の粒を萩の花に見立てて「お萩」、牡丹の花に見立てて「牡丹餅」と呼んだのです。ですから、厳密に言うと春は「ぼた餅」、秋は「おはぎ」ということですね。また、粒餡(つぶあん)がぼた餅で、漉し餡(こしあん)がおはぎ、とっていらっしゃる方が多いのかもしれませんが、実は、違います。餡(あん)の材料である小豆の収穫時期に関係があったのです。秋のお彼岸は、小豆の収穫期とほぼ同じで、とれたての柔らかい小豆を餡にすることができます。柔らかい皮も一緒につぶして使うので、粒餡ができます。春のお彼岸は、冬を越した小豆を使うこと



になります。皮は固くなっています。当然固くなった皮をそのまま使っては食感が悪くなります。そこで皮を取り除いた小豆を使い、漉し餡ができます。よって春のぼた餅は漉し餡で、秋のおはぎは粒餡だったのです。今では保存技術の発達や品種改良により、春でも皮のまま使うことができる小豆が登場してしまい、この理由は意味がなくなってしまったのです。そして、小豆の赤色には災いが身に降りかからないようにするおまじないの効果があるのだそうです。また、「棚からぼた餅」はその文字から春に舞い込む幸運のことだと推測されます。



暦こらむ

「聖人」とは「日知り人」のことで、日を知るとはその日がどのような意味合いを持った1日かを知ることです。旧暦は「生活暦」「農耕暦」などと呼ばれるほど生活に密着した暦です。旧暦を知ればあなたも聖人の仲間入りです。

= 第10回【三月は小の月?】 =

太陽暦（新暦）では、3月が大の月で4月が小の月という事は決まりきったことで、3月31日の次は4月1日と決まっています。ところが太陰太陽暦（旧暦）はそう簡単ではありません。旧暦は月の満ち欠けによって暦月を決定する太陰暦の一種で、新月（朔）となる日を月の始まり「朔日（ついたち）」としました。その月が大の月になるから小の月になるかは、次の暦月の朔日を計算するまで知ることはできません。つまり、先の例でいえば、三月と四月の一日がまず決まり、その後、四月一日の1日前が何日かが分かるという具合です。正確に言えば、現時点では一カ月の日数が決まっただけで、三月か四月かも決まっていません。理解して頂くために便宜上三月、四月と呼んだだけです。一カ月の日数ですが、それは30日である場合もあれば、29日である場合もあります（旧暦では大の月は30日、小の月は29日です）。

ちなみに今年（2023年）は旧暦でいえば三月も四月も一カ月29日の小の月です。新月の計算が出来れば、暦月の始まりを知ることが出来ましたが、それぞれの月が何月（暦月）になるのかが決まっていません。

新暦では3月の次は必ず4月が来ますが、旧暦ではその特定が必要となります。ここで登場するのが二十四節気です。二十四節気は暦月と季節を結び

新 暦	旧 暦	月	行 事 等
3月 3日	正月十三日		ひな祭り（新暦）【五節句】
5日	正月十五日		旧暦 小正月
6日	正月十六日	満月	啓蟄 【二十四節気】
14日	正月廿四日	下弦	
18日	正月廿八日		彼岸入り
20日	二月 一日	新月	旧暦 如月（二月）朔（一日）
21日	二月 二日		春分の日【二十四節気】 彼岸の中日
24日	二月 五日		彼岸明け
27日	二月 八日	上弦	

つけるために考え出されたもので、簡単にいえば暦の上に24の印（しるし）をつけるものです。その24の印をどのように割りつけるかですが、日数によって割り付ける方式（平気）と太陽の動いた角度によって割り付ける方式（定気）があります。現在、旧暦と呼んでいる暦は天保暦を参考に作られているので二十四節気の割り付けは太陽の動いた角度を基準とした定気法を採用しています。そして、その24の印（正確に言えば12の印）で月の名前が決まるのです。

※このコラムでは太陰太陽暦（旧暦）を漢数字、太陽暦（新暦）を数字で記載しています。次回は「2つの月の名」を予定しています。

【3月】 これからの地区内行事予定

3日（火）	巡回診療日（神埼内科）	13:30 ~	【美濃診療所】
5日（木）	巡回診療日（村野医院）	13:30 ~	【美濃診療所】
12日（木）	巡回診療日（林医院）	13:30 ~	【美濃診療所】
14日（土）	中西中学校卒業式		【中西中学校】
17日（火）	巡回診療日（神埼内科）	13:30 ~	【美濃診療所】
19日（木）	中西小学校卒業式	~	【中西小学校】
19日（木）	巡回診療日（なかしまクリニック）	13:30 ~	【美濃診療所】
25日（水）	グランドゴルフ大会	13:30 ~	【旧美濃小校庭】
26日（木）	巡回診療日（すみかわクリニック）	13:30 ~	【美濃診療所】
26日（木）	介護保険説明会	9:30 ~	【美濃公民館】
31日（火）	巡回診療日（神埼内科）	13:30 ~	【美濃診療所】

※行事の詳細はその都度ご案内いたします。日程は変更される場合もあります。